

11. キャリアサポートセンター

1) 平成17年度の就職環境考察

平成16年度と比較し、明らかに企業の採用意欲が高まってはきたが、大きく採用拡大傾向にある職種は主に営業職である。しかしながら学生の希望職種では営業職希望は低く、そのギャップ差により就職活動を全体的に評価すると今年度も厳しい環境が続くことになった。ここで課題となる事は、学生の「仕事」や「職種」の理解度を向上させることである。これらの課題を解消する方策としたインターンシップ制度は、まさに今後の重要な制度となり、拡大すべき重要課題として位置づけされることになる。

また、16年度現況報告の課題であった、学生の資質、コミュニケーション能力、基礎能力向上などを提示したが、その対応策について、「キャリアサポートセンター中長期への取り組み」として事業計画を提言、理事会承認のもとに全学部と協調し取り組む事になった。

2) キャリアサポートセンター 中長期重点施策について

この中長期計画は、平成17年度を基点とし第一ステップとして3年間、その後レビューを行い、第二ステップ3年間の一連の重点課題の施策提示を行い実施していく。

基本方針

- 1：学生個人指導方式の導入、早期キャリア開発シートによる目標設定と計画の実施。
- 2：各ゼミと協調し、学生の就職意識高揚と就職対策（ミニ講座等）などを図る。
- 3：学部の方向性（総合政策学部：公務員養成、外国語学部：職業を意識したコースによる育成、保健学部：資格取得）に対し連動強化。
- 4：就職戦略として、サービス産業、営業職部門をターゲットに加える。
学生の意識、職業に対する啓蒙を計る特別講座を開講し育成を行う。
- 5：インターンシップ制度を重点課題とし拡大充実と円滑な就職に結びつけることを目指す。

3) 平成17年度、就職内定率

保健学部	92.8%	(前年度 91.9%)
総合政策学部	89.0%	(前年度 83.5%)
外国語学部	86.0%	(前年度 83.6%)

〔評価分析〕

保健学部は1ポイントアップであるが、進学を除くと100%就職の実績を保ち好調に推移している。特に看護系は病院関係からの需要が多く、むしろ学生から見れば選択しやすい環境であるといえる。

総合政策学部は昨年比約6ポイントアップと改善されてきている。しかしながら就職環境考察に述べた通り、職種は営業職が60%と多く、就職先に関して、ある程度満足度として妥協せざるを得ない状況である。

外国語学部は昨年比約3ポイントアップ、航空・ホテル・旅行業界は相変わらず狭き門であり、競争が激しく難航。

文系2学部は数字的にはアップしているが、相変わらず希望する職種と自己の持つ基礎能力、応用能力とのギャップは大きく、今後この難問の解決が大きなポイントになる。これを打開するためにゼミとの協調を展開し実績があがったので、大きく前進することになると予測している。

4) 17年度課題と評価分析

1) 個人指導方法計画の推進

学生個人の目標はそれぞれ異なり、備え持っている能力、パーソナリティも違う。

よって個人が考える目標(就職)を達成させるには個人を育成する事が大切である、この信念に基づいて、この課題に取り組む。

実際に行った施策は

①低学年よりキャリア形成意識の醸成を図り、個々の学生に付加価値をつける。

実行した施策は

イ：学内資格取得講座8講座を開講、8講座に低学年が受講。特にパソコン講座1級資格講座では、17年度1年間で56名合格し、合格率に関しては全国平均よりも約20ポイントも高く実績が評価される。また学生のニーズは大変高く付加価値をつける講座の柱として今後も展開していく。

ロ：E-Testingではネット配信方式の実力向上の実技試験訓練システムを導入。39名が申し込みし活用しているが、利用率は当初の予測よりはるかに低い。このシステムの問題集は、SPI、一般常識テスト、その他就職筆記試験に関連する問題が網羅されており、パソコンがあれば何処でも利用できる便利なツールである。次年度課題は、学生が一番の弱点である基礎能力を補うには一番活用しやすいシステムなのに、何故学生のニーズが低いのかを分析し、必要性等のPR不足を含め改善していく。

②実質的就職率向上を目指し、学生個人指導の徹底と組織的な就職先開拓推進

イ：ランチタイム職業研究の開催

主に公務員希望の学生に対して、現役の警察官・自衛官及び消防官を招いて、昼休みに説明会を開催した。参加学生は、学年の制約を設けず1年から4年生まで対象とし、毎回10名から20名の参加があった。

ランチタイムを利用している為、自由に気軽に職業研究できる場として参加学生の評判も良い。

次年度も継続開催する。

ロ：ランチタイムサテライト インフォメーションの実施

八王子キャンパスの各部署がタイアップして、平成17年後期に、昼休みの時間帯を利用した学生相談を実施した。合計4回開催(会場は学生ホール)し、延べ20名の学生の相談に応じた。主な相談内容として、就職関連、履修相談、奨学金関連等々に至った。

次年度の課題として、より具体的な相談に応じるためには、各課単独で実施する方が望ましいため、場所や時間帯、課の独自性を再検討する必要がある。

③文系2学部ゼミとの連携、ゼミに於いて就職支援講座を開講

ゼミに於ける講座の開講には、「就職情報を個々に伝達」、「学生と2-Wayコミュニケーションで応じられる」「就職環境変化がリアルに伝えられる」等々、その効果は絶大である。

今年度は、文系2学部22ゼミ(実施率37%)からの要請を受けて実施。

この施策は、教員と職員領域による相互理解による協調路線は、他大学では見られない施策であり、この体制を継続して学生個人を育成して行けば、職業意識の向上は基より、低学年からの育成計画の実現など、期待される効果は大きいものと予測する。

④キャリア開発シートの活用による計画とアクションプランの推進

学生個人の育成計画は、本人の自覚が基本となる。このキャリア開発シートは本学独自に開発したシートで、このシートの内容は、学生が望む職種とその職種(又は企業)が期待する実力の差を分析し、その

11. キャリアサポートセンター

ギャップを埋める為に、本人自身が何時までに、何を、どのレベルまで達成させるかのアクションプランを作成し、実行に結び付ける一連の計画を記入するシートである。

このシートを基準に、学生のフォローを実施する事によって、目標に向かっての進捗確認と指導が徹底できる。但し現時点では3年生の活用が多く、時間軸としてレベルアップに間に合わないケースが多い。低学年の活用を進めることが次年度としての課題である。

⑤ インターンシップ

平成17年度インターンシップは、国内・国内合計66名を民間企業、市役所、施設及び海外の企業等々に派遣した。派遣学部は、保健学部・総合政策学部及び外国語学部で、それぞれの学部の特徴に合致した企業に学生の派遣ができた。また、国内受入企業の開拓も進め、33社72名枠が確保できた。

次年度課題として、派遣学生の増加と受入企業の開拓が最優先であり、引き続き企業に対しての協力依頼を推し進めていきたい。